

国語 第6学年 プラスチックごみの問題について考えよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：プラスチックごみについて、文章と図表がそれぞれ伝える情報を関係付けて読む。資料の数値だけで大きさを判断せず、何を、いつ、どの範囲で調べたものかを確認して自分の意見をまとめる。C(1)ウ・C(1)カの学習として、文章と資料から考える意見メモ。本文の主張、対応する資料、資料の条件、言える範囲、自分の意見を記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、文章と図表を結び付けて内容を捉え、プラスチックごみへの意見を共有して考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)ウ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：文章と資料から考える意見メモを残す。本文の主張、対応する資料、資料の条件、言える範囲、自分の意見を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)ウ・C(1)カに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：資料の数値を現在の世界全体の値として述べる。環境により行動の一覧で読解を終える。これについて、資料の題、単位、時点、対象、出典を確認する。本文の説明に対応する資料部分を示し、資料だけでは述べられない点をメモする。本文中の値を新しい値に無断で置き換えない。〔知識及び技能〕(2)イとC(1)ウ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この図表は、文章のどの説明を確かめる資料ですか。資料から言えることと、言い切れないことを分けるとどうなりますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)ウ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：文章と資料から考える意見メモは紙に記録できる。本文の主張、対応する資料、資料の条件、言える範囲、自分の意見を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)ウ・C(1)カの評価の代わりにならない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)ウ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：最新の統計に置き換えて授業するのか。

返し：C(1)ウ・カのためには掲載資料の条件を読むことが大事である。追加する最新資料は別資料として出典と時点を示し、教科書に書かれた事実として混ぜない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この図表は、文章のどの説明を確かめる資料ですか。資料から言えることと、言い切れないことを分けるとどうなりますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)ウ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

